



14 フィリピン 幹線道路橋梁改修事業 (1)(2)

フィリピンの地方幹線道路交通の
円滑化に貢献

承諾額／実行額 41億4,400万円／38億3,600万円
 借款契約調印 1990年2月、1991年7月
 借款契約条件 金利2.7%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド((1)のコンサルティングサービスは部分アンタイド)
 貸付完了 1997年5月、1997年10月
 実施機関 公共事業道路省 URL: <http://www.dpwh.gov.ph/>



本事業の目的

日比友好道路およびマニラ北方道路上の橋梁を改修することにより、幹線道路交通の円滑化を図り、フィリピンの地域経済の活性化および地方の住民の生活向上に貢献することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) a

本事業の橋梁改修により洪水時でも通行可能となったこと、橋梁拡幅により渋滞が緩和されたこと、破損や老朽化による通行時の危険性を回避するための迂回路通過の必要性がなくなったことが確認された。それに関連して受益者調査では、59人中31人が自宅から病院、学校、役所等の公共施設への移動時間が事業実施前と比較し平均して12分短縮されたとの意見が寄せられている。また、本事業の対象となった12バランガイ※すべてにおいて実施された受益者調査(130名対象)では、事業実施前に比べて、移動時間、安全性、快適さが向上したこと、橋梁の設計荷重増加により重量制限や速度規制が緩和され、道路交通の円滑化、人やモノの移動・運搬の効率性が向上したことが確認された。加えて受益者調査を通じて、橋梁幅員の拡幅により交互通行が可能となり渋滞の緩和や車両同士の接触事故の減少、歩行者用通路の設置により人身事故減少、病院、学校等の公共施設への移動時間の短縮、橋梁の設計荷重の増加によるトラックの積載量増加が可能となったこと等が明らかになった。よって、本事業の実施により概ね計画通りの効果発現がみられ、有効性は高い。

※フィリピンの行政単位



大型トラックが往来するインディアナ橋

本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) a

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性は極めて高い。本事業は、中期開発計画(1987-92年)および中期インフラ投資計画(1986-92年)のもとで計画され、事後評価時点でも、道路網の拡充、安全かつ効率的な道路整備が引き続き重視されている。

事業実施の経済性(効率性) b

本事業は、事業費については計画を下回ったものの(計画比96%程度)、期間が計画を上回ったため(計画比120%程度)、効率性についての評価は中程度と判断される。第1期はコンサルタントを変更したため、その手続きに時間を要したこと等により事業が遅延したが、第2期は乾季に工事を進めるよう工程管理したため当初計画より4カ月短縮された。

今後の展望(持続性) b

本事業は実施機関における人員、維持管理予算の不足という問題があるものの、持続性は概ね問題ないと評価される。実施機関は定期的な維持管理のために橋梁付近住民を雇用しており、橋梁の補修等は民間業者に委託している。

結論と教訓・提言

以上により、本事業の評価は高いといえる。本事業の提言として、橋梁改修後、交通量増加による渋滞や騒音問題、速度向上による交通事故が報告されており、実施機関は重量・速度制限の表示を設置するなど、橋梁に対する安全対策を講じることが望まれる。

開発途上国専門家の意見

本事業において整備された橋梁数は当初計画より減少したが、予算と必要性をふまえて適切に実施された。維持管理は、住民や民間部門との協働体制を推進するとともに、地区事務所に予算執行の裁量を与えることが重要。

専門家の氏名： Mr. Victor S. Limlingan (研究機関)
 ハーバード大学博士(経営学)。現在、AIM開発マネジメントセンター教授。専門は開発経済・戦略マネジメント。